「鹿屋小学校の王子町鉦踊り・銭太鼓伝承活動の取組」

１　学校名

鹿屋市立鹿屋小学校

２　学年・人数

４年生（89人）

３　日時・場所

令和４年11月４日（金）社会科「体験活動」（本校体育館）

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

⑴　名称

王子町鉦踊り・銭太鼓（おうじちょうかねおどり・ぜにだいこ）

⑵　由来

鉦踊りは，1753年（宝暦３年），王子町に築かれた和田井堰取水口から下流延々約12㎞に及ぶ鹿屋盆地への通水，約150haにわたる開田を記念して生まれた。豊作記念と水神祭を兼ね，毎年旧暦の８月28日に和田井堰の水神様に奉納している。銭太鼓は，1960年（昭和35年)頃に，町内の繁栄・五穀豊穣・家内安全などを祈願して発祥した。

⑶　構成等

鉦踊りは２種類で構成されており，太鼓の演者２人，手べしと呼ばれる銅拍子の演者２人，鉦の演者７～８人，笛の吹き手１人，唄い手１人，ほら貝１人で行う「鉦踊り」が先陣を作り，カラスが飛ぶような所作が特徴的な「からす舞」を10数人の踊り手が「鉦踊り」を取り巻くように円陣になって踊る。

銭太鼓は，１人２本の竹筒をもって，歌に合わせて10数人で踊る。三味線と太鼓を使い，歌のテンポは早くとてもにぎやかな踊りである。

５　保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間や社会科の学習の中で，地域の歴史やそれを守る人たちの工夫や努力について学んでいる。毎年11月には，王子町鉦踊り・銭太鼓保存会の皆様に来校いただき，鉦踊りと銭太鼓の歴史，踊り方，保存会の役目などについて体験的に学ぶ機会を設けている。保存会の皆さんは，毎回15人程度来校してくださる。

児童は，叩いたことのない銭太鼓を鳴らしたり，着物に袖を通して踊ってみたりすることで，歴史の重みや楽しさを感じることができている。また，保存会の方々は，児童が興味をもつだけではなく，参加したくなるように仕向ける工夫をして来校される。説明のためのスライドを準備したり，現物に触れさせたりするなど，生で見る，聞く，触れる，踊るなどの体験活動を通して肌で感じて，多くのことを学ぶよい機会となっている。

保存会の皆さんは，どんな思いでこの鉦踊り・銭太鼓を続けているのかを特に熱く語られる。その姿がとても生き生きとしている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

体験的な活動の時間を多くとるようにした。感染症対策を十分に行い，着物に袖を通す，太鼓を片手で持ち上げて重さを体感する，実際に叩いて音の響きを感じる，太鼓に触れて胴の部分が薄くなっていることに気付かせるなど，教科書やネット動画ではなく，現物を見て，触れて，聞いて，感じ考えられる場・資料を工夫して準備した。

活動を重ねている保存会の皆さんの地域に対する思いを児童に伝えていただくように依頼した。児童は，これから広い世界で活躍するが，自らが生まれ育った地域に誇りをもって，どこの地域に行っても，その地域のために自分の力を尽くせるシビックプライドをもったグローカル人材育成についても目標を設定し，実施した。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

わらじを履いてみる

鉦をついて踊ってみる

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【４年生児童】

・　和田井ぜき公園は新しい公園ですが，そこで約270年前からかねおどりが続いてきたなんておどろきました。ぼくたちが遊んでいるところでも昔の子供たちもあそんでいたのかな。

・　かねが重たかった。あれを持っておどるのは大変だと思いました。

・　来年は，おじさんたちと踊ってみたいと思いました。

【教職員】

・　多くの保存会の方が来校していただけることが非常にありがたい。鉦踊りと銭太鼓が地域の誇りになっていることを改めて感じた。

・　地域行事への参加が少なくなり，地域への関心が薄れていると言われる中で，これだけ魅力的な文化財があることを知ることで，地域への思いを強くするよい機会となったと考える。

【保存会から】

児童が興味をもって話を聞いたり，道具に触れたり，踊ってくれたことが何より嬉しい。自分たちの地域には，こんな伝統があると少しでも知ることで，外に出たときのふるさとを思う気持ちに差が出てくる。地域づくりにも興味をもたせる種まきのつもりで活動している。